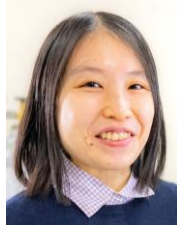


2026（令和 8）年 10 月 25 日
科学技術振興機構（JST）

第 8 回輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）受賞者の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、女性研究者の活躍推進の一環として、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者およびその活躍を推進している機関を表彰する「第 8 回輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）」の受賞者を決定しました（別紙 1）。表彰式は、2026 年 10 月 25 日（日）に東京国際交流館 プラザ平成（東京都江東区）にて開催しました。

【輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）】



高木 里奈（タカギ リナ）氏

東京大学 物性研究所

准教授

専門分野：物性物理学、磁性、強相関電子系

【輝く女性研究者活躍推進賞（ジュニアシダ賞）】

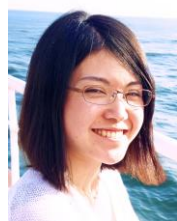


岡山大学

OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学（学長 那須 保友 氏）

【輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）】



高木 悠花（タカギ ハルカ）氏

東京大学 大気海洋研究所

准教授

専門分野：海洋生物学、微古生物学、進化生態学

今回は、2026 年 4 月 1 日（水）から 6 月 30 日（火）まで募集し、外部有識者からなる選考委員会（別紙 2）による審査を経て、輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）1 名、輝く女性研究者活躍推進賞（ジュニアシダ賞）1 機関、加えて、輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）1 名を決定しました。

受賞者には JST から賞状と賞牌を授与するほか、輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）受賞者には副賞として芦田基金※から賞金 100 万円が贈られます。

※ファッションデザイナーの故 芦田 淳 氏が、1994 年に青少年育成を目的として公益社団法人科学技術国際交流センター（JISTEC）に寄附し設立された基金。

＜添付資料＞

別紙 1：第 8 回輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）受賞者

別紙 2：輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）について

＜お問い合わせ＞

＜事業に関すること＞

科学技術振興機構 人財部 ダイバーシティ推進室

伊藤 祥（イトウ サチ）

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

Tel：03-5214-8443

E-mail：diversity@jst.go.jp

＜報道に関すること＞

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

Tel：03-5214-8404 Fax：03-5214-8432

E-mail：jstkoho@jst.go.jp

＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

第 8 回輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）受賞者

【輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）】



タカギ リナ

高木 里奈 氏

東京大学 物性研究所

准教授

専門分野：物性物理学、磁性、強相関電子系

2014 年 東京大学 大学院工学系研究科 物理工学専攻 博士課程 修了

2014 年 理化学研究所 創発物性科学研究センター スピン創発機能研究ユニット 特別研究員

2019 年 東京大学 大学院工学系研究科 物理工学専攻／同 総合研究機構 助教

2023 年 東京大学 物性研究所 准教授（現職）

<受賞理由>

高木 里奈 氏は、電子相関・対称性・トポロジに由来する電子物性を開拓し、既存の常識を覆すインパクトの高い研究を推進している。反強磁性体でありながら、室温で情報の不揮発な保持・書き込み・電氣的読み出しが可能な物質を実証し、次世代の情報技術に新たな道を示している。さらに、従来は試料依存性として扱われてきた結晶性のわずかな違いを物性制御因子として捉え、新たな物質設計原理の構築に挑んでいる。

欧州の研究機関との継続的な連携など国際性も高く、ダイバーシティ推進、一般向け講演、女子中学生の職場訪問受け入れなど、アウトリーチと次世代育成にも積極的に取り組んでいる。独創性、国際性、社会貢献を兼ね備えた研究者である。

磁石の性質がほとんどないのに情報を記録できる？ — 電子の並び方が開く次世代メモリー

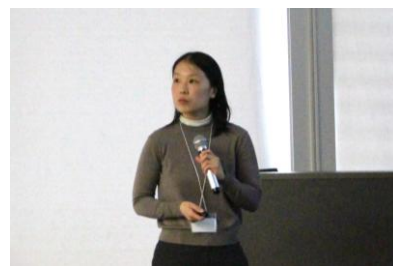
ハードディスクなどの記憶装置では、物質の中にある小さな磁石の向きの違いを利用して情報を記録しています。しかし、記録する部分を小さくして密集させると、磁石同士が影響し合い、さらに多くの情報を記録することが難しくなります。

私は、電子が作る小さな磁石が反対向きに並び、全体としては磁石の性質がほとんど現れない物質を研究しています。このような物質は高密度な情報記録に適していると考えられていま

すが、情報の読み書きが難しいという課題がありました。私たちは、硫化鉄という物質で、室温でも情報を保ったり書き換えたりして、その状態を電氣的に読み出せることを示しました。

さらに、結晶のわずかな成分の違いや欠陥、時間とともに起こる変化にも着目しています。

これらを上手に制御することで物質の働きを変え、将来の高密度で高速な次世代メモリーの実現を目指しています。



学会での研究発表

【輝く女性研究者活躍推進賞（ジュニアシダ賞）】



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学
(学長 那須 保友 氏)

＜受賞理由＞

岡山大学は、2009 年に全国に先駆けて「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）制」を導入し、女性研究者の採用から育成、昇任、リーダー育成までを一貫して支援する仕組みを構築した。WTT 制により 42 名の女性特任助教を採用し、その後 11 名が准教授、6 名が教授へ昇任するなど、女性研究者を継続的に育成し上位職への登用につなげてきた。また、女性講師・准教授を教授へ登用する上位流用制度や、研究・教育・管理運営能力を体系的に養うリーダー育成プログラムを整備し、将来のリーダー育成を推進している。さらに、WTT 制は他大学にも展開される先進モデルとして全国的な波及効果を生み出しており、全国ダイバーシティネットワークなどを通じた知見共有・発信も高く評価される。

女性研究者の活躍を組織全体で支える同大学の継続的な取り組みは、他大学・研究機関の模範となるものである。

【輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）】



タカギ ハルカ

高木 悠花 氏

東京大学 大気海洋研究所

准教授

専門分野：海洋生物学、微古生物学、進化生態学

2016 年 早稲田大学 大学院創造理工学研究科 博士課程 修了

2016 年 東京大学 大気海洋研究所 特任研究員

2017 年 日本学術振興会 特別研究員（PD）

2021 年 千葉大学 大学院理学院 地球科学研究部門 助教

2024 年 東京大学 大気海洋研究所 海洋生態系科学部門 准教授（現職）

＜受賞理由＞

高木 悠花 氏は、海洋プランクトンである浮遊性有孔虫を対象に、「光共生」を切り口として生命進化と地球環境の相互作用というスケールの大きな課題に挑み、地球科学と生命科学を融合した独創的な研究を展開している。世界各地での観測調査や飼育実験、同位体分析、遺伝子解析を駆使し、光共生の進化史や環境適応機構を世界に先駆けて解明している。

筆頭著者として多数の優れた研究成果論文を発表し、異なる分野の複数学会から表彰されるとともに、国際共同研究や招待講演を通じて高い国際的評価を獲得してきた、地球生命科学分野を国際

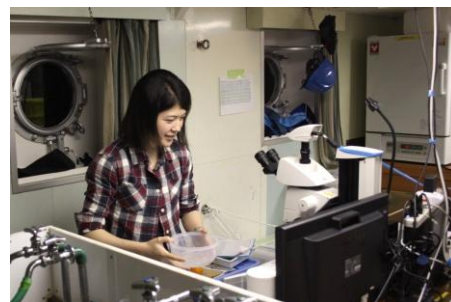
的にリードする研究者である。中高生への啓発活動や、アートやデザインを通じても活躍し、成果を広く社会へ発信している。

小さなプランクトンは、なぜ藻類と暮らすのか — 海の共生から進化と温暖化を考える

海にすむ「浮遊性有孔虫」は、目に見えないほど小さな単細胞生物です。種類によっては、体の中に小さな藻類をすまわせ、藻類が光合成で作る栄養を受け取っています。私は、この異なる生物同士が助け合って暮らす「光共生」の仕組みや進化を研究しています。

世界各地の海で有孔虫を採集し、飼育実験や遺伝子解析、殻に残る化学情報を分析することで、どのような種類が共生し、その関係がどのように進化してきたのかを調べています。その結果、光共生は進化の過程で何度も生まれ、長い時間をかけて受け継がれることで、より強い結び付きへ発展してきたことが分かってきました。

さらに、共生する藻類は有孔虫の体内にすることで高温に強くなる可能性も明らかになりつつあります。こうした研究は、海の生態系が温暖化などの環境変化にどう応答するのかを理解し、将来の海の姿を予測する手掛かりになると期待されています。



船上でのプランクトン調査

<輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）について>

輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）受賞者に肩を並べる高い研究実績を持ち、かつ、輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）の受賞者と異なる研究分野または研究キャリアパスを有する応募者がいた場合、輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）を設置し授与しています。

輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）について

JST はダイバーシティを推進する取り組みの中で、女性研究者の活躍を推進しています。日本では研究者に占める女性の割合がいまだに低く、研究開発プログラムなどへの女性研究者の参画も少ない状況にあります。そこで 2019 年度に、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者と、女性研究者の活躍を推進している機関を表彰する制度として「輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）」および「輝く女性研究者活躍推進賞（ジュニアシダ賞）」を創設しました。

- ・ 詳細：<https://www.jst.go.jp/diversity/about/award/index.html>
- ・ 受賞者一覧：<https://www.jst.go.jp/diversity/about/award/award.html>

選考委員

（敬称略、委員長を除き五十音順、所属・役職は募集開始時点）

氏名	所属・役職
山下 由起子 （委員長）	マサチューセッツ工科大学 Susan Lindquist 女性科学者冠教授
上田 修功	理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長
大越 慎一	東京大学 執行役・副学長
小林 千晶	ハートフォードシャー大学 宇宙物理研究センター 教授
玉田 薫	九州大学 副学長／同 先導物質化学研究所 主幹教授
中村 志保	元 キオクシア株式会社 メモリ技術研究所 参事
水島 昇	東京大学 大学院医学系研究科 教授
八木 絵香	大阪大学 CO デザインセンター 教授

以上